

番号	116	供養塔		
所在地	有田町岩谷川内			
災害別	昭和２３年（１９４８）　水害			
目的別	慰　　霊		建立年	不　　明
特記事項				



有田町岩谷川内地区から猿川沿いを大谷溜池に向かう途中、いくつかの石碑や石仏と並んで昭和23年の水害犠牲者の供養塔が建てられている。供養塔の背面には「昭和二十三年九月十二日 水害遭難者二十四名之霊」と刻まれている。この供養塔が建つ猿川一帯は、猿川溪谷とも呼ばれ「大岩・小岩」と呼ばれる奇岩や川をせき止めた自然のプールが作られている。

「白磁のまちの道しるべ」と題して、「大岩・小岩」の案内板が供養塔に向かう途中に建てられており、それには「昭和23年（1948）9月11日、集中豪雨により猿川上流の大谷池堤防が決壊



国土地理院電子国土 Web

し、大洪水がこの地区を襲いました。川沿いの20数戸の民家を押し流し、23人の尊い命までものみ込んでしまいました。水害の前まで猿川溪谷は住民の避暑地でした。友水館（ゆうすいかん）という料亭があり、駐車場一带は桜樹園（おうじゅえん）と呼ばれていました。現在のプールの所には大岩・小岩と呼ばれる岩塊もあり、その上流には唐臼小屋も数軒ありました。」と記されている。

「有田町史（通史偏）」（昭和61年12月25日 有田町発行）によれば、9月11日夕方から12日朝にかけての大雨で、旧有田町では、崖崩れで1名圧死、23名が溺死したと記されている。この惨事は、大谷溜池の堤防の決壊と白川谷の評定所付近に集積されていた材木の流出が大きな要因になったとのことである。

